



指導主事だより

# なんだか うれしい

教育委員会

相談時間等

- 立科小学校/午前9時～午前11時30分  
電話0267-56-3131 (呼)
  - 立科中学校/午後2時～午後5時  
電話0267-56-1076 (呼)
  - 立科町児童館/  
午前11時50分～午後1時40分  
電話0267-56-0248 (呼)
- (担当 指導主事 中島一彦)



糸に伝わる風の力に負けないように

## 風よりも風になる

風あげに熱中する子どもたち。  
 風を地面に平らになるように、そっと置く女の子・・・  
 つながる糸をほどこきながら、ゆっくりと後ろに下がる女の子。距離を確かめ「いくよ！」と声をかけて走り出す。  
 浮き上がった風が、自分の後をついてくる。その感覚がうれしくて、走り続ける女の子。  
 風と対話をしながら、風あげを楽しむ子どもたち。  
 「先生、見て」「先生、揚がったよ」の声があちこちから聞こえてくる立科小学校の校庭の朝。  
 指先がかじかむような厳寒の季節。  
 なかなか揚がらない風、地面を這うように踊り出して、壊れそうになる風、風に乗ってぐんぐんと上昇する風・・・固く握りしめる小さな手の中のタコ糸。糸から伝わる風の力を感じながら風を見つめる子どもたち。  
 どの子にとっても、きっとかけがえのない時間。  
 私もまた、絡み、よじれた糸をほどこきながら、かじかむ指先を感じながら、幼少の頃の自分を思い起しました。遠い時間の中に居た自分と、今、目の前に居る子どもたちの姿が重なってきたのです。  
 祖父や叔父から教わった風あげの様々。風に付ける新聞紙のしっぽの長さを、工夫し続けたこと・・・。しっぽを付けた糊の匂い・・・。そんなことを思っていると子どもたちの中を飛び回る先生方の姿が目にとまりました。  
 担任の先生、支援の先生、みんな寒気の中を子どもたちに関わり続けられていました。

手袋を外し、子どもたちの糸の絡みを笑顔ではずしてくれていました。  
 「すごいねえ」と感嘆の声を届けるK先生。  
 子どもの手を握りながら、何とか糸をほどここうと格闘するM先生。  
 糸をほどこき終わった瞬間に「先生、ありがとう」の声と同時に又走り出した男の子・・・  
 幼い子どもたちと生きた一瞬。  
 子どもたちと寒風の中で過ごした時の流れに充実感が生まれました。  
 子どもたちと先生方で共に過ごした時間。しみあがる風や空気の中で、夢中に風あげに向かい続けた時間。子どもも先生も互いに考え考え、そして子どもたちの姿に感嘆の声をあげる先生方。  
 大きくなったいつの日か、幼いころの様々を思い起こし、  
 今日この日が遠い時間とのつながりにあるということ、出会った人々の温かさに支えられ、今の自分があるということ、そして自分自身もまた他の生を支えていくということを自身の生の中に映し続けてほしいと思うのです。  
 しみあがる大地の空気に触れながら、心の温まる朝。

